

令和 5 年度宮城県災害薬事コーディネーター研修を実施しました（2023/11/23）

テーマ：災害薬事コーディネーター

会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2023 年 11 月 23 日（木・祝）、東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）で令和 5 年度宮城県災害薬事コーディネーター研修を実施しました。宮城県内の災害薬事コーディネーター、薬剤師、行政職員など 15 名が受講しました。本研修は昨年度、宮城県が災害薬事コーディネーター向けに初めて実施した研修で、東北大学災害科学国際研究所共催、災害医療 ACT 研究所（宮城県石巻市）が業務委託を受け実施、今回で 2 回目になります。佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

災害医療が円滑に機能するためには、薬剤の流通は不可欠です。宮城県では東日本大震災や令和元年台風 19 号の対応経験から、令和 3 年 3 月に災害時薬事関連業務マニュアルを整備し県災害薬事コーディネーター業務を明記、令和 4 年 2 月に薬剤師 22 名に県災害薬事コーディネーターを委嘱しました。

当日は、宮城県保健福祉部薬務課による県災害薬事体制概要説明から研修が始まりました。災害時薬事の実務を担う薬剤師が受講者として一堂に会したことから、県災害薬事連絡会議実務担当者部会も引き続き行われ、県が改定したマニュアルに対する意見交換が行われました。その後、受講者は被害想定のお考え、情報記録・伝達、資源管理などについて講義を受け実習を行い、一日の締めくくりに感染症やロジなどの具体的課題に対する本部運営訓練を行いました。災害関連研修に初めて臨んだ受講者も多く、受講者からは「災害時の混乱を事前に研修で体験できて本当に良かった」などの感想がよせられました。

社会の災害対応力向上には、それを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所では、このような実践的研修会を継続して開催していきます。



宮城県薬務課から薬事関連業務
マニュアルを説明



災害薬事連絡会議実務担当者部会で
発言する受講者



災害時に無秩序に集まる情報を
整理して共有する



モバイルファーマシー運用について
グループでの検討結果を発表する